齋藤榮二先生に感謝の意を込めて

はじめに

　コロナの猛威の年に本書を世に問います。
そのようなときだからこそ、皆さんに問いかける意味があると思います。
　私たち教師は、
生徒たちに伝えたいことがあるからこそ教師をやっています。
成長を心から望むからこそ教師をやっています。
何事にも負けない強さを獲得してほしいからこそ教師をやっています。
しんどいことが多く、わずかな喜びに励まされるだけの教師生活かもしれません。それでも私たちは教師をやっています。
コロナと対峙してでも、聖職を全うしようと、教師をやっています。
　なぜ教師をやっているのでしょうか。この答えとして私たち皆が共有しているはずなのは、日本の教育のあり方として示された「主体的・対話的で深い学び」の達成でしょう。そうです。「主体的・対話的で深い学び」を達成しなければなりません。
　誰が達成するのでしょうか。
　もちろん生徒たちです。生徒たちが「主体的・対話的で深い学び」を達成するのです。
　生徒たちが「主体的・対話的で深い学び」をしている状況を実現しませんか。授業の基礎・基本をきっちりやることから始めることで、それが可能になります。この信念が大切だと思います。コロナで不透明な中にいるからこそ、教育の原点を大切にしたいものです。
　本書を体験していただくことで、「主体的・対話的で深い学び」を生徒が楽しんでいる授業を、皆さんに実現していただきたいと思っています。決して、私たち教師が、「主体的・対話的で深い学び」の授業をすることが目的ではありません。
　皆さんの前で、「主体的・対話的で深い学び」を生徒がしていて、その結果、生徒たちが力をさらに伸ばして、生徒たちが、日々、授業を、待ち遠しくして

いるように是非なって欲しいです。

コロナの時代にこそ、学ぶことの喜びを、教師も生徒も、満喫したいものです。

「主体的・対話的で深い学び」を生徒たちが楽しんでいる授業を具現化するために、本書には大きな秘訣が2つあります。

1つは、本書は「主体的・対話的で深い学び」の強固な下支えを基に書かれています。それは、具体的には後述しますが、(1) 齋藤榮二先生の「授業の10の原則」、(2) 授業進行の基礎・基本、(3) CLILの考え方があります。さらにそれらが学習指導要領に即していて、その上に「主体的・対話的で深い学び」を生徒が達成するための、教師の指導・支援の7の原則があります。これらが授業を支えるという構図になっています。

もう1つは執筆陣です。全英連（全国英語教育研究団体連合会）をご存知ですか。全国の小・中・高の教員の約6万人を会員とする英語教育研究団体で、年に一度、全国大会を開催しています。2004年度の大阪大会で公開授業を行い、分科会を担当した、故齋藤榮二先生率いるメンバーの有志、さらに現在の大阪府の英語教育をけん引している先生方が執筆陣です。

日々の授業に役立つように、授業の基礎・基本をきっちりやることを通して、こうすれば「主体的・対話的で深い学び」を生徒が達成する！こうすることで先生方が日々の授業をより優れたものにきっとできる！を実現できることを期して、本書は書かれています。

本書を読んでいただいて、納得していただいて、まずはそれに倣って授業づくりをしていただきたいと思います。

2020年12月

高橋昌由

英語×「主体的・対話的で深い学び」
―― 中学校・高校 新学習指導要領対応 ――

目　次

はじめに …… i

I こうすれば生徒たちは「主体的・対話的で深い学び」に

本書を貫く基本的な考え方と思い …… 2

II Hop「主体的・対話的で深い学び」の英語授業 基礎編

1. 文法が定着する話すこと［やり取り］（中 2） …… 20
2. ICT を活用した聞くこと（中 2） …… 30
3. 正攻法の読むこと（高 1） …… 44
4. 継続させる話すこと［やり取り］（中 3） …… 54
5. 書きたくなる書くこと（高 1） …… 62

III Step「主体的・対話的で深い学び」の英語授業 標準編

1. 聞くことから話すこと［やり取り］へ（中 2） …… 76
2. 読むことから話すこと［発表］へ（高 1） …… 86
3. 聞くことから書くことへ（高 1） …… 98

IV Jump 「主体的・対話的で深い学び」の英語授業 発展編

4技能・五領域の統合の「ジグソー法」…… 120

V 『総学』・『探究』的な 「主体的・対話的で深い学び」の英語授業

英語指導における「主体的・対話的で深い学び」と探究のつながり… 148

引用文献 …… 151

執筆担当 …… 152

編者・著者紹介 …… 154

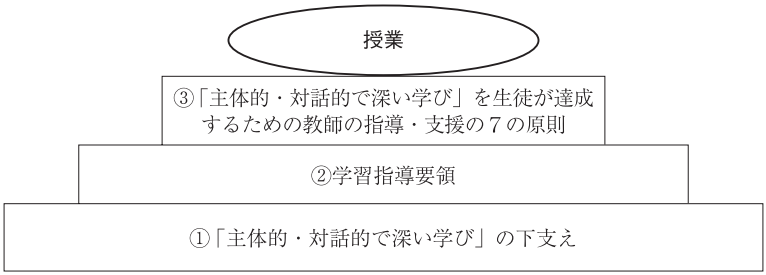
＊「主体的・対話的で深い学び」（例えば、文部科学省（2018、2019））は、様々な場面で、アクティブ・ラーニング、アクティブラーニング、Active Learning（略してAL）等と表現されている場合もあります。

I こうすれば生徒たちは「主体的・対話的で深い学び」に

本書を貫く基本的な考え方と思い

本書は、生徒が「主体的・対話的で深い学び」を達成するために書かれました。執筆を担当した先生方は、百戦錬磨の先生方です。その先生方が、それぞれの担当ユニットを、思いを込めて書き上げました。そこには、全員が共有している思いがあります。ここでは、それを説明します。

1.「主体的・対話的で深い学び」のための授業構造



図Ⅰ-1 「主体的・対話的で深い学び」のための授業構造

「主体的・対話的で深い学び」を生徒たちが達成するための授業構造は上の図となります。

上の図では、①「主体的・対話的で深い学び」の下支えが最も下にあり、これで基礎を固めています。そのすぐ上には、②学習指導要領があります。これら①と②をしっかりふまえて、③「主体的・対話的で深い学び」を生徒が達成するための教師の指導・支援の７の原則があります。これら①、②、③の土台の上に授業実践があり、それぞれの授業実践が、①、②、③に支えられていることを示しています。①、②、③のそれぞれは、次に順に説明していきます。

2.「主体的・対話的で深い学び」の下支え

左の図で最も下にある「主体的・対話的で深い学び」の下支えは、次の3つから成ります。

① 齋藤榮二先生の「授業の10の原則」
② 授業進行の基礎・基本
③ CLILの考え方

(1) 齋藤榮二先生の「授業の10の原則」

英語教育界に大きな足跡を残された齋藤榮二先生のたくさんの名著の中の『これだけは知っておきたい英語授業レベルアップの基礎』に示された授業の原則を参照しました（齋藤、1996）。四半世紀も前に、現在の英語授業の基礎・基本が端的にまとめられています。

① やさしいものをむずかしく教えるな
② 学んだものを使わせよ
③ 英語についての説明はできるだけ避けよ
④ 生徒を動かせ
⑤ ゲーム化を考えよ
⑥ 教師がやってみせよ
⑦ 絵を使え
⑧ 和訳をできるだけ避けよ
⑨ 生徒の相互活動を考えよ
⑩ 教師はできるだけ英語を使え

①～⑩を少し解説しておきます。それぞれ確認してください。

① やさしいものをむずかしく教えるな…ついついやってしまいますね。生徒は大混乱です。

② 学んだものを使わせよ…使わないと使えるようにはなりませんね。

③ 英語についての説明はできるだけ避けよ…英語博士養成講座ではないのですから。

④ 生徒を動かせ…実際に体を動かすと頭に入るというのは理にかなってい

授業進行の基礎・基本

指導案と本時の進行	
	本時が、年間計画・学期計画・月間計画等とシラバスに位置づけられている。
	本時の上記の計画と位置づけが生徒に周知されている。
	周到に計画されて、進行（時間）が適切である。
	余裕のある計画で、進行（内容）が適切である。
	目標の提示が適切である。
	授業進行の提示が適切である。
	易から難に進んでいる。
	Small steps で進んでいる。
	協働的な活動の位置づけがある。
	リデザイニングの位置づけがある。
	Classroom policy（授業運営の指針）があり、提示されている。
	Homework policy（宿題の取り組みの指針）があり、提示されている。
	授業と授業外活動の連環がある。
環境	
	環境整備や整理整頓（教室等）ができている。
	整理整頓（生徒のまわり）ができている。
	黒板と教室の美化が適切である。
	掲示物には不要なものがなく、整っている。

学習集団づくり	
	互いに認め合い、高めあうことができている。
	授業ルールを設定して、提示している。
	授業ルールが機能している。
生徒観察	
	適切な立ち位置で授業をしている。
	生徒全体の観察ができている。
	見ていないふりができている。
	適切な机間指導・支援をしている。
	つまずきの発見ができている。
生徒への声掛け・対応	
	つまずきへの対処ができている。
	個へのフィードバックができている。
	全体へのフィードバックができている。
	個とのやり取りができている。
	全体とのやり取りができている。
	授業が活発になるように働きかけている。
	授業が活発になっている。
声・発話	
	声の大きさが適切である。
	声が明瞭である。
	声の高低が適切である。
	声色が適切である。
	発話の間が適切である。
	発話が簡潔である。

発問・質問	
	理解確認の質問が機能している。
	思考・認識過程を経る発問が機能している。
板書・プロジェクター	
	文字等がていねいである。
	文字等の大きさが適切である。
	文字等の濃さ・太さが適切である。
	文字等の色使いが適切である。
	提示の計画・進行が適切である。
	自己学習に活用できる工夫がある。
	掲示物が適切である。
	掲示の仕方が適切である。
	適切な黒板への書き方をしている。
活動の場の構成	
	生徒の実態を考慮している。
	めあてや見通しを意識させる時間がある。
	交流する設定が適切である。
	発表を引き出す仕掛けがある。
	主体的に学ぶ仕掛けがある。
	対話的に学ぶ仕掛けがある。
	深く学ぶ仕掛けがある。
英語使用	
	教師は適切なプロソディで音声を発出している。
	教師の適切な英語使用がある。
	生徒の適切な英語使用の仕掛けがある。

教材・教具	
	副教材が効果的に活用されている。
	効果的なワークシートなどが作成されている。
	実物教材等の教具が適切に使用されている。
	ICT 機器が効果的に使用されている。
個の学習の成立	
	個の学習の段階が設定されている。
	個の学習の状況把握と適切な支援がある。
	個の学習目標を達成させている。

ます。

⑤　ゲーム化を考えよ…ちょっとした遊び感覚で楽しく学べます。

⑥　教師がやってみせよ…教師がやっているのを見ると「あッ！そういうことか！」となります。

⑦　絵を使え…今はICTも含みます。ワケのわからぬ話をだらだら聞くより絵を見ると全解！

⑧　和訳をできるだけ避けよ…（不要な）日本語使用は避けるべきだというのは今も昔も同じ。

⑨　生徒の相互活動を考えよ…今でいう「対話的」や共同学習の勧めです。

⑩　教師はできるだけ英語を使え…「英語を使いましょう！」という教師が率先するのは当然。

(2) 授業進行の基礎・基本

本書では様々な授業展開を示しています。教師は授業では「演じ切る」ことが必要です。では、どのようにして演じ切るのでしょうか。そこには教師の隠れた技があります。それをまとめました。

授業で学ぶのは生徒ですが、生徒にとって「主体的・対話的で深い学び」となるように、教師が授業を進める際に役立つ基礎・基本を一覧表にまとめました。必要なものばかりです。これからの授業を構築する際の視点として、あるいは、日頃の実践を見直すポイントとして活用ください。

(3) CLILの考え方

CLILはContent and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）の略語で「クリル」と読みます（「リ」が強くなります）。内容（社会や理科などの教科または時事問題や異文化理解などのトピック）と言語（日本では主に英語）の両方を、柔軟に学ぶ方法です。多言語多文化状況のEUの統合の一環として、広がってきています。

CLILの一番の特徴は「4つのC」で授業が組み立てられていることです。「4つのC」とは、Content（科目やトピック）、Communication（単語・文法・発

音などの言語知識や読む、書く、聞く、話すといった言語スキル)、Cognition(様々な思考力)、CommunityないしCulture（共同学習、異文化理解、地球市民意識）です。

次の10項目を指針に教材を準備して、指導します。

① 内容学習と語学学習の比重を等しくするなど内容に重きがあります。

② オーセンティック素材（新聞、雑誌、ウェブサイトなど）の使用を奨励する。

③ 文字だけでなく、音声、数字、視覚（図版や映像）による情報を与える。

④ 様々なレベルの思考力を活用する。その際、低次思考スキル（Lower Order Thinking Skills: LOTS）の暗記、理解、応用と高次思考スキル（Higher Order Thinking Skills: HOTS）の分析、評価、創造は、どちらも大切です。

⑤ タスクを多く与える。

⑥ 共同学習（ペアワークやグループ活動）を重視する。

⑦ 異文化理解や国際問題の要素を入れる。

⑧ 内容と言語の両面での足場（学習の手助け）を用意する。

⑨ 4技能・五領域をバランスよく統合して使う。

⑩ 学習スキルの指導を行う。

3. 学習指導要領

学習指導要領は教育課程編成の基準です。これを基に、授業は行われますし、教科書も書かれています。私たち教師は、学習指導要領を理解して、授業実践します。学習指導要領をふまえて、5つの領域の目標と言語活動をもとに授業をします。そして、授業実践という教師の指導は評価と一体化したものであると考えますので、当然評価を見据えた指導にもなってきます。

ここでは学習指導要領の中から、本書に関係する重要な項目を引用して、以下に示しました。表にまとめていますので端的に理解できます。是非とも読んでください。

(1)「外国語活動・外国語の目標」の学校段階別一覧表

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方
外国語で表現し伝え合うため，外国語やその背景にある文化を，社会や世界，他者との関わりに着目して捉え，コミュニケーションを行う目的や場面，状況等に応じて，情報を整理しながら考えなどを形成し，再構築すること。

外国語科の目標		
	中学校 外国語	高等学校 外国語
	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動を通して，簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ，外国語による聞くこと，読むこと，話すこと，書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して，情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(知識及び技能)	(1) 外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどを理解するとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。	(1) 外国語の音声や語彙，表現，文法，言語の働きなどの理解を深めるとともに，これらの知識を，聞くこと，読むこと，話すこと，書くことによる実際のコミュニケーションにおいて，目的や場面，状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。
(思考力，判断力，表現力等)	(2) コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり，これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，外国語で情報や考えなどの概要や要点，詳細，話し手や書き手の意図などを的確に理解したり，これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
(学びに向かう力，人間性等)	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め，聞き手，読み手，話し手，書き手に配慮しながら，主体的，自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

5つの領域別の目標		
	中学校　外国語	高等学校　英語コミュニケーションⅠ
聞くこと	ア　はっきりと話されれば，日常的な話題について，必要な情報を聞き取ることができるようにする。 イ　はっきりと話されれば，日常的な話題について，話の概要を捉えることができるようにする。 ウ　はっきりと話されれば，社会的な話題について，短い説明の要点を捉えることができるようにする。	ア　日常的な話題について，話される速さや，使用される語句や文，情報量などにおいて，多くの支援を活用すれば，必要な情報を聞き取り，話し手の意図を把握することができるようにする。 イ　社会的な話題について，話される速さや，使用される語句や文，情報量などにおいて，多くの支援を活用すれば，必要な情報を聞き取り，概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。
読むこと	ア　日常的な話題について，簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができるようにする。	ア　日常的な話題について，使用される語句や文，情報量などにおいて，多くの支援を活用すれば，必要な情報を読み取り，書き手の意図を把握することができるようにする。

	イ　日常的な話題について，簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする。 ウ　社会的な話題について，簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。	イ　社会的な話題について，使用される語句や文，情報量などにおいて，多くの支援を活用すれば，必要な情報を読み取り，概要や要点を目的に応じて捉えることができるようにする。
話すこと ［やり取り］	ア　関心のある事柄について，簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする。 イ　日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを整理し，簡単な語句や文を用いて伝えたり，相手からの質問に答えたりすることができるようにする。 ウ　社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて，考えたことや感じたこと，その理由などを，簡単な語句や文を用いて述べ合うことができるようにする。	ア　日常的な話題について，使用する語句や文，対話の展開などにおいて，多くの支援を活用すれば，基本的な語句や文を用いて，情報や考え，気持ちなどを話して伝え合うやり取りを続けることができるようにする。 イ　社会的な話題について，使用する語句や文，対話の展開などにおいて，多くの支援を活用すれば，聞いたり読んだりしたことを基に，基本的な語句や文を用いて，情報や考え，気持ちなどを論理性に注意して話して伝え合うことができるようにする。
話すこと ［発表］	ア　関心のある事柄について，簡単な語句や文を用いて即興で話すことができるようにする。 イ　日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする。 ウ　社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて，考えたことや感じたこと，その理由などを，簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。	ア　日常的な話題について，使用する語句や文，事前の準備などにおいて，多くの支援を活用すれば，基本的な語句や文を用いて，情報や考え，気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。 イ　社会的な話題について，使用する語句や文，事前の準備などにおいて，多くの支援を活用すれば，聞いたり読んだりしたことを基に，基本的な語句や文を用いて，情報や考え，気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができるようにする。
書くこと	ア　関心のある事柄について，簡単な語句や文を用いて正確に書くことができるようにする。 イ　日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを整理し，簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができるようにする。 ウ　社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて，考えたことや感じたこと，その理由などを，簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。	ア　日常的な話題について，使用する語句や文，事前の準備などにおいて，多くの支援を活用すれば，基本的な語句や文を用いて，情報や考え，気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。 イ　社会的な話題について，使用する語句や文，事前の準備などにおいて，多くの支援を活用すれば，聞いたり読んだりしたことを基に，基本的な語句や文を用いて，情報や考え，気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができるようにする。

(2)「外国語活動・外国語の言語活動の例」の学校段階別一覧表

	中学校　外国語	高等学校　英語コミュニケーションⅠ
聞くこと	(ｱ) 日常的な話題について，自然な口調で話される英語を聞いて，話し手の意向を正確に把握する活動。	(ｱ) 日常的な話題について，話される速さが調整されたり，基本的な語句や文での言い換えを十分に聞いたりしながら，対話や放送などから必要な情報を聞き取り，話し手の意図を把握する活動。また，聞き取った 内容を話したり書いたりして伝え合う活動。
	(ｲ) 店や公共交通機関などで用いられる簡単なアナウンスなどから，自分が必要とする情報を聞き取る活動。	(ｲ) 社会的な話題について，話される速さが調整されたり，基本的な語句や文での言い換えを十分に聞いたりしながら，対話や説明などから必要な情報を聞き取り，概要や要点を把握する活動。また，聞き取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。
	(ｳ) 友達からの招待など，身近な事柄に関する簡単なメッセージを聞いて，その内容を把握し，適切に応答する活動。	
	(ｴ) 友達や家族，学校生活などの日常的な話題や社会的な話題に関する会話や説明などを聞いて，概要や要点を把握する活動。また，その内容を英語で説明する活動。	
読むこと	(ｱ) 書かれた内容や文章の構成を考えながら黙読したり，その内容を表現するよう音読したりする活動。	(ｱ) 日常的な話題について，基本的な語句や文での言い換えや，書かれている文章の背景に関する説明などを十分に聞いたり読んだりしながら，電子メールやパンフレットなどから必要な情報を読み取り，書き手の意図を把握する活動。また，読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。
	(ｲ) 日常的な話題について，簡単な表現が用いられている広告やパンフレット，予定表，手紙，電子メール，短い文章などから，自分が必要とする情報を読み取る活動。	(ｲ) 社会的な話題について，基本的な語句や文での言い換えや，書かれている文章の背景に関する説明などを十分に聞いたり読んだりしながら，説明文や論証文などから必要な情報を読み取り，概要や要点を把握する活動。また，読み取った内容を話したり書いたりして伝え合う活動。
	(ｳ) 簡単な語句や文で書かれた日常的な話題に関する短い説明やエッセイ，物語などを読んで概要を把握する活動。	
	(ｴ) 簡単な語句や文で書かれた社会的な話題に関する説明などを読んで，イラストや写真，図表なども参考にしながら，要点を把握する活動。また，その内容に対する賛否や自分の考えを述べる活動。	
話すこと［やり取り］	(ｱ) 関心のある事柄について，相手からの質問に対し，その場で適切に応答したり，関連する質問をしたりして，互いに会話を継続する活動。	(ｱ) 身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について，使用する語句や文，やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で，情報や考え，気持ちなどを即興で話して伝え合う活動。また，やり取りした内容を整理して発表したり，文章を書いたりする活動。

	(ｲ) 日常的な話題について，伝えようとする内容を整理し，自分で作成したメモなどを活用しながら相手と口頭で伝え合う活動。	(ｲ) 社会的な話題について，使用する語句や文，やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で，対話や説明などを聞いたり読んだりして，賛成や反対の立場から，情報や考え，気持ちなどを理由や根拠とともに話して伝え合う活動。また，やり取りした内容を踏まえて，自分自身の考えなどを整理して発表したり，文章を書いたりする活動。
	(ｳ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき，読み取ったことや感じたこと，考えたことなどを伝えた上で，相手からの質問に対して適切に応答したり自ら質問し返したりする活動。	
話すこと［発表］	(ｱ) 関心のある事柄について，その場で考えを整理して口頭で説明する活動。	(ｱ) 身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について，使用する語句や文，発話例が十分に示されたり，準備のための多くの時間が確保されたりする状況で，情報や考え，気持ちなどを理由や根拠とともに話して伝える活動。また，発表した内容について，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。
	(ｲ) 日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどをまとめ，簡単なスピーチをする活動。	(ｲ) 社会的な話題について，使用する語句や文，発話例が十分に示されたり，準備のための多くの時間が確保されたりする状況で，対話や説明などを聞いたり読んだりして，情報や考え，気持ちなどを理由や根拠とともに話して伝える活動。また，発表した内容について，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。
	(ｳ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき，自分で作成したメモなどを活用しながら口頭で要約したり，自分の考えや気持ちなどを話したりする活動。	
書くこと	(ｱ) 趣味や好き嫌いなど，自分に関する基本的な情報を語句や文で書く活動。	(ｱ) 身近な出来事や家庭生活などの日常的な話題について，使用する語句や文，文章例が十分に示されたり，準備のための多くの時間が確保されたりする状況で，情報や考え，気持ちなどを理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。また，書いた内容を読み合い，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。
	(ｲ) 簡単な手紙や電子メールの形で自分の近況などを伝える活動。	(ｲ) 社会的な話題について，使用する語句や文，文章例が十分に示されたり，準備のための多くの時間が確保されたりする状況で，対話や説明などを聞いたり読んだりして，情報や考え，気持ちなどを理由や根拠とともに段落を書いて伝える活動。また，書いた内容を読み合い，質疑応答をしたり，意見や感想を伝え合ったりする活動。
	(ｳ) 日常的な話題について，簡単な語句や文を用いて，出来事などを説明するまとまりのある文章を書く活動。	
	(ｴ) 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことから把握した内容に基づき，自分の考えや気持ち，その理由などを書く活動。	

4.「主体的・対話的で深い学び」を生徒が達成するための教師の指導・支援の７の原則

生徒の未来を見据えて、生徒が授業（の内外）で、主体的・対話的で深い学びをするために、私たち教師が授業実践で何を大切にしなければならないかを、「主体的・対話的で深い学び」の下支えと学習指導要領をふまえて、７つのキーワードでまとめました。

① 評価に関する教師と生徒の取り組み
② 安心・安全で円滑進行する授業
③ 理にかなった言語活動・学習活動
④ 基礎・基本
⑤ 真正なタスクへの粘り強い取り組み
⑥ 学習の個人内完結と振り返り
⑦ 自律的学習者であることから社会的エージェントであることへ

この教師の指導・支援の７の原則の授業実践では、生徒たちがどのように学んでいるかを例示しました。それが 16 ～ 17 ページの表です。

その表では、７つのキーワードとその説明に続いて、それぞれの原則について、主体的な学び、対話的な学び、深い学びの「学び」別の教師の指導・支援の例を、「生徒が何をするか」という視点でまとめました。まず、それぞれの原則の説明をします。

① 評価に関する教師と生徒の取り組み

生徒や学校の実態にあった目標とその評価方法を生徒が理解して、それに向かって生徒が適切に学ぶことを促進することが必要です。

② 安心・安全で円滑進行する授業

様々な生徒がいる授業では、ルールが明確にされていて、ユニバーサルデザインにより、すべての生徒が安心して自ら学び、それにより学習がスムーズに進むようにすることが必要です。

③　理にかなった言語活動・学習活動

様々な活動に、なるほどと生徒は腑に落ちて、意味があるタスクに取り組むことが必要です。そうすることで、学習した内容を活用して適切に表現できる力を養うように取り組むことが必要です。

＊「学習活動」は、学習指導要領解説（中学校）では「言語活動，観察・実験，問題解決的な学習など」（p.4）と示されていますが、ここでは言語活動と区別して、基礎・基本の学習で、語彙、文法、発音または音読等の教師の指導による学習とします。

④　基礎・基本

齋藤榮二先生が、時として、毅然とした姿勢で、しんどいことも生徒に取り組ませる教師の指導のあり方を「教育的腕力」（齋藤、2003）と表現されていましたが、これも念頭に、例えば、語彙、文法、文化を理解して、コミュニケーションの場で４技能・五領域の活用を通じて習得させるような取り組みが必要です。

⑤　真正なタスクへの粘り強い取り組み

主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うためには、様子を見ながら挑戦的で、生徒が興味深いと感じる活動が必要で、本物の素材を使った、本物のタスクに取り組ませることが必要です。

⑥　学習の個人内完結と振り返り

学習がモヤモヤ感で終わるのではなく、腑に落ちて、「わかった！」となり、さらにできるようになったという、自己に向かい合い個人内で完結した状態になることを重視して、様々な段階でそのための振り返りをすることが必要です（「学習は個人において成立する」（齋藤、2003））。

⑦　自律的学習者であることから社会的エージェントであることへ

何のために学ぶのかという根本原理の問題です。生徒が自分で考えて適切解を出す自己決定の場面を増やして、自律的に学習できるようになり、英語が使えるようになった！から、さらに社会で主体的に行動できるように生徒を育成することが必要です。この気概を教師も生徒も持たなければなりません。

＊CEFRでは、学習者は「社会的エージェント（social agent）」と捉えられています。社会の中で主体的に行動する者という意味です。

これらのキーワードをもとに教師は「主体的・対話的で深い学び」を生徒が達成するためにどのような指導・支援をするかの例を16～17ページの一覧表で確認してください。

学習評価について

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（以下、参考資料）に従い、本書では、「授業の目標」と「評価規準」を明示しました。

評価規準の作成については、「学習指導のねらいが児童生徒の学習状況として実現されたかについて，評価規準に照らして観察し，毎時間の授業で適宜指導を行うことは、育成を目指す資質・能力を児童生徒に育むためには不可欠である」（参考資料、p.16）とあります。また、『学習評価の在り方ハンドブック』（小・中学校編、高等学校編）（以下、ハンドブック）には「学習評価については，日々の授業の中で児童生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置くことが重要です」と説明されています。本書では、これらに基づき、それぞれの授業について、参考資料にある単元ではなく本時に関しての「授業の目標」と「評価規準」を提示しています。

学習評価の在り方は重要です。本書では、「教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにする」（ハンドブック、高等学校編）ためにも学習評価を重視しています。その方法は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の３つの観点のそれぞれに生徒の学習状況を評価する観点別学習評価です。

「主体的・対話的で深い学び」を生徒が達

指導・支援の７の原則		指導・支援の７の原則による
キーワード＆解説		主体的な学び
1. 評価に関する教師と生徒の取り組み	実態にあった目標とその評価方法を生徒が理解して、それに向かい適切に学ぶことを促進する。	生徒の動機づけを高めるような目標と評価方法（CAN-DO リスト、ルーブリックなど）をもとに、その達成のための具体的な方法を生徒が自分で設定して、学びに向かう。
2. 安心・安全で円滑進行する授業	授業のルールを明確に示して、ユニバーサルデザインにより生徒が安心して自ら学び、学習がスムーズに進むようにする。	教師は生徒が「誤る」ことも必要であることを強調するも教え込もうとはせずに、生徒は、思考、判断、表現するタスクに取り組み、外国語の知識を適切に活用できる技能を身に付ける。
3. 理にかなった言語活動・学習活動	生徒が納得できて意味があるタスクに取り組ませて、学習した内容を活用して、適切に表現できる力を養うように取り組ませる。	目的・場面・状況が明確に設定されている理にかなったタスクに、生徒が取り組む必要性と必然性を理解して、自ら前向きに学ぶ。
4. 基礎・基本	外国語の特徴やきまり及び文化の理解を土台にして、コミュニケーションでの４技能の活用を通じて基礎・基本を習得させる。	学ぶことへの興味・関心を高めつつ、外国語の特徴やきまりや文化に気づいて、それを理解しながら素材を理解して、活用できるようになる。
5. 真正なタスクへの粘り強い取り組み	主体的、自律的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うために、挑戦的で興味深い本物のタスクに取り組ませる。	生徒が自分の課題に気づき、見通しを立てて、粘り強く考えながら真正なタスクを「自分事」として取り組む。そのために graphic organizer などを活用する。
6. 学習の個人内完結と振り返り	学習が個人内で完結することを重視して、様々な段階でその省察をさせる。	生徒自身が、CAN-DO リストに基づき、学習が完結する場面への見通しを立てて学習して、自分の達成度を自分で確認し、次の課題を認識する。
7. 自律的学習者であることから社会的エージェントであることへ	生徒の自己決定場面を増やして、自律的に学習できるようにして、社会で主体的に行動できるように育成する。	自律的に学習することで社会的エージェントを自覚できて、責任を伴う選択をして、さらに自己決定しなければならないタスクに取り組む。

成するための教師の指導・支援の７の原則

生徒の学びの例：「生徒が、何を／どのように、するか／しているか」	
対話的な学び	深い学び
授業進行の段階で、教員と生徒または生徒と生徒の間で、理解を伴う学びのフィードバックをして、自分の伸長や変容を生徒同士で探る。	生徒が目標の達成状況を判断して、教師が支援しつつも、生徒は見通しをもって更なる目標を決めて、それを達成するように取り組む。
意味のやり取りを中心に、生徒は自分たちの好ましい関係の構築につとめ、小さな誤りを臆せず、自発的で自律的に自然なインタラクションを促進する。	多様で高度なタスクに取り組み、振り返りで相互にアドバイスを取り入れて気づきを経験して、基礎・基本の定着を深めて、安心・安全にクラス全体で学ぶ。
意味のやり取りに必要性と必然性があるペアやグループでの理にかなったタスクを経験して、生徒同士の関係性をお互いに深める。	主体的で自律的に理にかなったタスクで学び、生徒自身がどの程度変容できたかを実感して、新たに取り組みたくなるタスクを自分で可能な限り設定して学ぶ。
Think → Pair → Share などの手法を用いたペアやグループでの活動で、活動後のお互いの伸長を生徒が確認し、基礎・基本の定着を進める。	既習事項を基礎・基本をもとに多面的に捉えて、それを相互に関連付けてさらに新しい目的・場面・状況へと応用・発展させるタスクを通して、学びを深める。
ペアや小グループで協働して真正で解消したくなるインフォメーションギャップや意味のある交渉の機会が設定されていて、学びに向かう。	高度で真正なタスクの解決に向けて、高次思考スキルを用い、活動後は振り返りを通じて「できたこと」「できなかったこと」を整理する。
学んだことをまず整理して、相手に伝えて、さらにそれについてのフィードバックを相手から受けて、自分の中で再び学ぶ。	学んだことについて自分で振り返り、事象、問題点、原因・背景、課題、解決方法、進捗などで整理して、話して、あるいは、書いて発信する。
ペアやグループでそれぞれが自律する。その後、お互いが支援し合えるようになる。自分が社会の何とどのように関連しているかをともに模索して、社会と積極的に関わるにはどうすればよいかを考える。	生徒と社会をつなげる発問を通して深く考え、教員と生徒で責任と権限を共有し、多様な学習方法に自律的に取り組む。さらに、社会に大きく寄与できる取り組みを行い、その成果を振り返ることをめざす。

本書について

・本書は、学習指導要領や「主体的・対話的で深い学び」に基づきつつ、「ちょっと工夫した」、基礎を重視した授業実践で、中学生及び高校生の英語の力をアップするお助けになることをめざして、徹底して、授業の様々な展開例を示しています。

・本書のⅡ、Ⅲ、Ⅳでは、英語授業の様々な展開を例示しています。Ⅱでは1つの技能に焦点化した授業、Ⅲでは2技能の統合の授業、Ⅳでは4技能の統合をめざす授業を示しました。

・各授業には次を含んでいます：1. 授業のねらいと学習指導要領、2. 授業の題材・教材、3. 本時の目標、4. 本時の評価規準、5. 準備、6. 本時の活動指導計画。これらで、授業の全体を明らかにしました。

・各授業の「6. 本時の活動指導計画」では、授業を進める際のポイントを提示、提案しています。授業を進める際のポイントは、原則として、見開き左側のページの内容のすぐ右に明示することとしています（必ずしもそのようになっていない場合もあります、紙面の都合上、申し訳ありません）。じっくりお読みください。

・適所に コラム を配置して、授業に役立つ情報提供をめざしました。

・説明の簡略化のために、教師、生徒、生徒たちは、それぞれT、S、ssの記号を使いました。また、（話しかける等の）方向や変換を、→や⇔で示しました。さらに、日本語は日と、英語は英と表記している場合もあります。

・特に中学校の授業では、言語活動、指導、言語活動の流れを意識して、授業を展開するようにしました。

・引用文献の提示では、「1. 授業のねらいと学習指導要領」においては、『学習指導要領』からの引用であることの記述は、紙面の都合上控えさせていただきました。また、参考文献等は本編に所載した場合もあります。

II Hop
「主体的・対話的で深い学び」の英語授業

基礎編

1. 文法が定着する話すこと［やり取り］(中 2)

1. 授業のねらいと学習指導要領

本時では、話すこと［やり取り］の大枠の中で、現在完了形と今回の学習指導要領の改訂で新しく指導事項に追加された現在完了進行形について、その働きを理解して、それらを使って伝え合う技能を身に付けることをめざします。その際、既習事項を活用しつつ、言語活動と効果的に関連付けて指導します。

これにあたっては、いわゆる文法指導に終始するのではなく、話すこと［やり取り］の伸長をめざし、「ア　関心のある事柄について，簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができるようにする」ことを目標に、「(ｱ) 関心のある事柄について，相手からの質問に対し，その場で適切に応答したり，関連する質問をしたりして，互いに会話を継続する活動」と効果的に関連付けて指導します。

本時にて取り扱う「文法事項」は、「英語の特徴やきまりに関する事項」として整理されていて、それは知識と技能の面で構成されています。

文法の指導について、学習指導要領では「3　指導計画の作成と内容の取扱い」「(2) 内容の取扱い」において以下のとおり示されています。

> エ　文法事項の指導に当たっては，次の事項に留意すること。
> (ｱ) 英語の特質を理解させるために，関連のある文法事項はまとめて整理するなど，効果的な指導ができるよう工夫すること。
> (ｲ) 文法はコミュニケーションを支えるものであることを踏まえ，コミュニケーションの目的を達成する上での必要性や有用性を実感させた上でその知識を活用させたり，繰り返し使用することで当該文法事項の規則性や構造などについて気付きを促したりするなど，言語活動と効果的に関連付けて指導すること。
> (ｳ) 用語や用法の区別などの指導が中心とならないよう配慮し，実際に活用できるようにするとともに，語順や修飾関係などにおける日本語との違いに留意して指導すること。

文法事項の知識がどれだけ身に付いたかを重要視するのではなく、生徒の学

びの過程全体を通して、生徒が主体的に運用する技能を高めること、そして、思考・判断・表現を繰り返すことで、既習の知識が定着して、生徒の学習内容の理解が深まるなど、知識と技能が互いに関係し合うことが重要です。

2. 授業の題材・教材

題材は、現在完了形及び現在完了進行形を含む、自分の関心のある事柄です。文法事項を理解して、活用して慣れ親しみ、短い対話やパートナーのためのまとめノートを作成することで定着をはかります。教材は書き下ろしのダイアローグです。

3. 本時の目標

関心のある事柄に関して、聞いたことについて事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や現在完了形及び現在完了進行形を含む文を用いて即興で伝え合うことができる。

4. 本時の評価規準

A. 知識・技能	B. 思考・判断・表現	C. 主体的に学習に取り組む態度
①〈知識〉現在完了形及び現在完了進行形の特徴やきまりを理解している。 ②〈技能〉関心のある事柄について思ったこと、その理由などを、現在完了形及び現在完了進行形などを用いて伝え合う技能を身に付けている。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想などをまとめるために、関心のある事柄に関して聞いたことについて考えたことや感じたこと、その理由などを即興で伝え合っている。	友達の意見等を踏まえた自分の考えや感想などをまとめるために、関心のある事柄に関して聞いたことについて考えたことや感じたこと、その理由などを即興で伝え合おうとしている。

＊現在完了形と現在完了進行形を以下では「現在完了形等」とします。

5. 準備

（1）ハンドアウト

①提示する短文

Satoshi:Have you traveled a lot, Yuki? Yuki:Yes, I have been to a lot of places. Satoshi:Oh, nice. Have you ever been to Rakuten Seimei Park Miyagi? Yuki:Yes, I have been to the stadium twice. Satoshi: Oh, two times. How about Fukuoka PayPay Dome? Yuki:No, I haven't been there.

②質問カード

Did your bike break down again yesterday?	Can you play tennis?
Are you enjoying your summer vacation?	Are you hungry?
Is Kyoto an interesting place?	

③回答カード

Yes. I have not eaten much today.	Yes. I have been there three times.
Yes, but I have not played for three years.	Yes. I have been enjoying swimming in the sea.
Yes. It has broken down since then.	